



GIGA スクール通信 vol.3



令和3年度から、GIGAスクールによる一人一台端末を本格的に活用した教育が始まった垂水市。ここでは、市民の皆様にも、GIGAスクールはどういったものなのか解説するとともに、各校の取組を紹介することで、GIGAスクール構想を基にした教育に親しみを持っていただければと思います。

第22回 錦江湾奥会議

◎企画政策課政策推進係
☎内線 245

GIGAスクール 推進キャラクターが決定

「GIGAスクールのまち 垂水」としての取組を更に推進させ、広く情報発信していくために、推進キャラクターを作成しました。どちらも垂水市の特産物である「ビワ」をモチーフにしています。



▶びわっち：ロイロノートで勉強を頑張っています



▶びわわん：ナビマン (AIドリル) に毎日取り組んでいます

原作：田之上 史佳さん
垂水中央中学校2年生
編集：飯山 朋華さん
新城小学校
特別支援教育支援員

4月に愛称を募集し、156件の応募がありました。小学生から大人まで応募してくださっており、GIGAスクールの取組を楽しみながら進めていこうという思いを感じる事ができました。選考の結果、「びわっち」と「びわわん」に決定しました。まずは、2人の愛称を覚えて（呼んで）親しんでいただくと幸いです。
今後、時間割表や各種通信、教室掲示物などに登場させたり、学校ホームページなどでGIGAスクールに関する取組を紹介する役割を与えたりして、「GIGAスクールのまち 垂水」を盛り上げてくれる推進キャラクターに成長してくれることを願っています。



▲錦江湾奥の発展のため様々な議論がされました。

湾奥4市、各分野で連携。



▲湯元敏浩市長（始良市）



▲中重真一市長（霧島市）



▲尾脇雅弥市長



▲松山芳英副市長（鹿児島市）

新城小学校『みんなを魅き込むGIGAスクール構想』

新城小学校では、令和2年1月から先行的に1人1台タブレット端末を活用した算数科の授業改善やテレビ会議システムを使った他校との交流を進めていました。

令和3年度から全国的にGIGAスクール構想がスタートしてからは、これまでの実績を基に、新城小学校らしい「みんなを魅き込むGIGAスクール構想」を推進しています。具体的には、児童は、「タブレット端末を毎日触る・毎日使う」を合い言葉に、登校後すぐにスクールライフノートを立ち上げ、心の天気朝の気分を入力します。下校時まで机の上にタブレット端末を置き、教師が指示したとき以外にも、調べたいことがあった時や早く問題解決を終えた時は、タイピングやプログラミングに自ら挑戦する姿が見られます。教師も、「毎日使ってみる＝チャレンジ」「課題は成果」を合い言葉に様々な授業改善を行うとともに、協働性を大切にしたい学び合いを積極的にしています。

現在、授業実践が170例ほど共有できており、これからもどんどん増えそうに楽しみです。保護者に対しては、土曜参観日に学校・家庭で親子一緒にオンライン授業の体験をしたり、PTA全体会をTeamsテレビ会議で実施したりしました。地域には、学校の取組をホームページ等で積極的に発信したり、地域誌『たより新城』に取組を紹介していただいたりしています。GIGAスクール構想2年目は、意味あるICT活用を目指して、みんなを魅き込みながら更に推進していきます。



▲タブレットで俳句を吟味する様子

錦

江湾の湾奥部に位置する鹿児島市・垂水市・霧島市・始良市の4市で構成される第22回錦江湾奥会議が5月13日、垂水市文化会館で開催されました。

これは、『湾奥』をキーワードに環境・観光・防災・広報の各専門部会での事業実施、課題解決や今後の取組について協議するものです。

当日は、昨年度実施された事業の報告や今後の取組として、『桜島大噴火の際の降灰、土石流、津波、地震等への防災対策及び災害時相互協力体制の確立』、『国立公園の魅力の発信と保全・活用』、『次世代へ引き継ぐ豊かな海、河川、干潟など自然環境の保全・活用』をテーマに広域的な観点から協議がなされました。

本市は、今後も3市と連携し、様々な施策・事業について、知恵を出し合い協働することにより、地域活性化を図ってまいります。